

特別企画：東北6県トラック運送業 主要100社の業績動向調査

主要100社の売上高5.7%増 ～復興・駆け込み需要や運賃値上げが効果大～

はじめに

東北地方では、建設業を中心とした復興需要が続いているほか、トヨタ自動車東日本の進出による自動車関連の輸送需要が運送業界を下支えしている。一方で消費税増税後は消費が低迷しているほか、急激な円安および燃料費の高騰・急落など、2014年は運送業にとって波乱含みの1年となった。

そこで帝国データバンク仙台支店は、東北6県におけるトラック運送業者を対象に、2013年度、2012年度、2011年度の3期分の売上高や純利益（税引後当期純損益）を調査・分析し、その傾向を探った。

この調査は、帝国データバンクの企業概要ファイル「COSMOS2」（収録数145万社）から、東北6県に本社を置き、トラック運送を主業とする売上高上位100社（以下：主要100社）を対象に集計。売上高・純利益の両方が3期連続で判明しない企業や、公開を希望しない企業は除外した。

なお、同調査は2014年1月に続き2回目。

調査結果（要旨）

1. 売上高トップは「第一貨物」（山形県）。「塩竈港運送」（宮城県）が新たにトップテン入り。
2. 県別の売上高伸び率は「岩手県」が唯一2ケタのプラス。
3. 100社合計の売上高伸び率は5.7%増と2年度連続のプラス。
4. 増収企業は80社と27.0%増。
5. 100社合計の純利益伸び率は81.3%増と2年度連続のプラス。
6. 収益改善企業は66社と40.4%増。
7. 2014年度は運転手不足や人件費上昇で業績伸び率の鈍化が予想される。

1. <売上高トップテン>

～「第一貨物」がトップ。「塩竈港運送」が新たにランクイン

売上 順位	前年 順位	商号	所在地	主系列	決算 年/月	売上高		伸び率 (%)
						2012年度	2013年度	
1	(1)	第一貨物	山形県山形市		14/3	69,141	70,379	1.8
2	(2)	三八五流通	青森県八戸市		14/3	20,400	21,879	7.3
3	(3)	南光運輸	宮城県石巻市	日本製紙	14/3	16,641	19,082	14.7
4	(4)	八戸通運	青森県八戸市		14/3	9,494	9,307	▲ 2.0
5	(5)	JAパールライン福島	福島県福島市	全農	14/3	7,628	7,485	▲ 1.9
6	(6)	クレハ運輸	福島県いわき市	クレハ	14/3	6,819	6,736	▲ 1.2
7	(7)	センコン物流 ※	宮城県名取市		14/3	6,767	6,719	▲ 0.7
8	(11)	塩竈港運送	宮城県塩竈市	日本通運	14/3	5,745	6,460	12.4
9	(9)	東邦運輸倉庫	仙台市青葉区		14/3	6,076	6,357	4.6
10	(8)	カメイ物流サービス	青森県八戸市	カメイ	14/3	6,097	6,215	1.9

注：単位＝百万円。すべて単体決算。商号内の※は上場企業。

売上高ランキングのトップは、前年度に続き**第一貨物**（山形県山形市）だった。そのほか上位7位までのランキングに変動はなかったが、売上高伸び率が12.4%増の**塩竈港運送**（宮城県塩竈市）が前年度圏外（11位）から8位にランクインした。伸び率が最も大きかった企業は、14.7%増の**南光運輸**（宮城県石巻市）だった。

2. <県別の構成・伸び率>

～売上高伸び率は「岩手県」が唯一2ケタのプラス

100社の所在県別構成は、宮城県が29社、福島県25社、青森県・岩手県各15社などとなった。

売上高伸び率は、全県でプラスとなった。最も伸び率が大きかったのは、15.5%増の岩手県だった。

純利益伸び率は、山形県が前年度赤字から黒字に転換。福島県が唯一マイナスだった。最も伸び率が大きかったのは、757.1%増の青森県だった。

県 (社数)	売上高 (百万円)	伸び率 (%)	純利益 (百万円)	伸び率 (%)
青森 (15)	66,514	6.0	360	757.1
岩手 (15)	41,186	15.5	497	37.7
宮城 (29)	105,717	7.1	2,186	43.6
秋田 (5)	13,581	6.9	281	23.2
山形 (11)	89,170	2.0	317	-
福島 (25)	65,528	2.6	1,066	▲ 18.7
合計 (100)	381,696	5.7	4,707	81.3

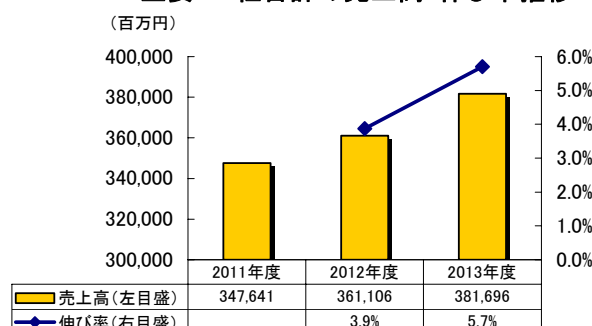
3. <売上高の推移>

～伸び率は5.7%増と2年度連続のプラス。増収企業は27.0%増に

100社合計の売上高は、3816億9600万円。
伸び率は5.7%増と2年度連続でプラスとなった。前年度(3.9%増)に対して1.8ポイント改善した。

増収企業数は80社となり、前年度(63社)より27.0%(17社)増加した。

主要100社合計の売上高・伸び率推移



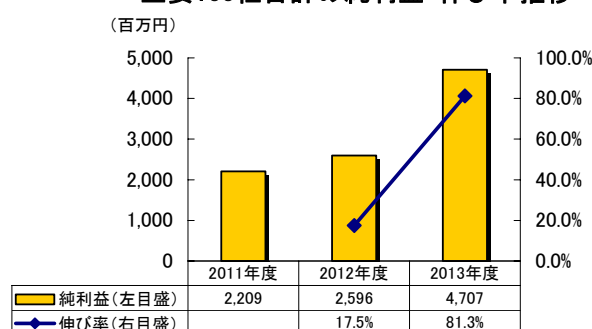
4. <純利益の推移>

～伸び率は81.3%増と2年度連続のプラス、収益改善企業は40.4%増

100社合計の純利益は、47億700万円。伸び率は81.3%増と、2年度連続プラスになった。前年度(17.5%増)に対し63.8ポイントも改善した。

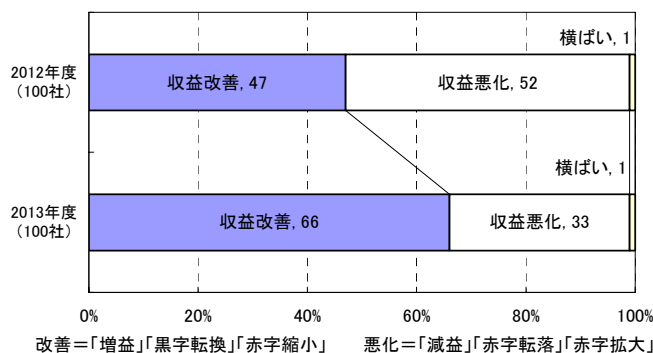
黒字企業は94社で、前年度(82社)より14.6%(12社)増加した。

主要100社合計の純利益・伸び率推移



なお、年度別で収益動向の推移をみると、収益が「改善」した企業は66社(増益50社、黒字転換14社、赤字縮小2社)となり、前年度(47社)より40.4%(19社)増加した。

主要100社 年度別収益動向推移



5. <まとめ>

～燃油価格下落は追い風も、運転手不足や人件費上昇が懸念材料

100 社合計の売上高伸び率は 5.7%増、純利益伸び率は 81.3%増で、ともに 2 年度連続のプラスとなった。増収企業数は 80 社、収益改善企業は 66 社と、ともに前年度より大幅に増加しており、特定企業に隔たらず満遍なく好調だったことが分かった。

この背景には、(1) 復興需要の継続や消費増税の駆け込み需要で取扱貨物量が増加したこと、(2) 被災した運送業者の設備が復旧・増強されたこと、(3) 物価や燃油価格の上昇基調に合わせた運賃値上げ交渉が成功したことなどが挙げられる。

政府が定めた集中復興期間の最終年を迎える 2015 年は、公共工事中心の復興需要が継続することが予想されるほか、年末から年始にかけての燃油価格の下落が業界の追い風となっている。しかし、これにより再び値下げなど価格競争の激化が予想されるほか、2014 年 4 月の消費税増税以降、消費の反動減が長引いている。また、慢性的なドライバー不足や人件費上昇などの懸念材料も抱え、東北の運送業界の業績伸び率は今後、鈍化する可能性がある。

【内容に関する問い合わせ先】

株式会社帝国データバンク 仙台支店情報部 担当: 古屋
TEL 022-224-1451 FAX 022-265-5060

当レポートの著作権は株式会社帝国データバンクに帰属します。

当レポートはプレスリリース用資料として作成しております。報道目的以外の利用につきましては、著作権法の範囲内でご利用いただき、私的利用を超えた複製および転載を固く禁じます。